

いのちを大切にしている体験活動 ～動物たちとのふれあいを通して～

目標・ねらい

- 動物たちと関わることを通して、いのちの大切さを感じることができるようにする。
- 動物の世話をすることを通して、責任感の醸成を図る。
- 動物の立場になって考え、世話をすることを通して、他者への思いやりの心を育成する。

教育課程上の位置づけ
特別活動 その他

事前指導・経緯

本校の校庭には「ふれあいらんど」がある。ふれあいらんどは、ポニーとヒツジを飼育するボルピィ牧場〈*1〉と、ヤギやウサギ、カモなどを飼育する飼育舎からなる。本校が開校するにあたり、心豊かな子どもたちの育成を目的に、その当時の教職員が苦勞して造り上げたものである。開校から14年間、子どもたちだけではなく、教職員や保護者、地域の人々が一体となって、この「ふれあいらんど」を運営、管理している。

「ふれあいらんど」を創設することで、子どもたちを動物たちと直接ふれあわせることにより、子どもたちの情操を培えるようにしている。実際には、教師は子どもたちと一緒に飼育活動をする中で、動物に合った飼い方を指導している。餌をあげたり、糞尿の始末をしたりするなどの一連の世話を通して、子どもたちの、生命を尊重する態度を育むとともに、責任感や自主性を高めるようにしている。時には生命が誕生するその瞬間を間近で見ることが出来る。

【教育課程上から見た「ふれあいらんど」】

ふれあい委員会〔特別活動〕

日常的な世話の中心
動物コンクールの企画と運営
動物カレンダーの作成
「ふれあい新聞」の発行

動物クラブ〔特別活動〕

動物たちとのふれあい
乗馬体験

理科

生活科

道徳

学級活動

ふれあいらんど

もっと楽しくふれあいらんど〔総合的な学習の時間〕

本テーマは、第4学年で実施する。

子どもたちが動物と接し、餌の与え方や糞の始末などの世話をする。その際、人間中心の視点だけで考えるのではなく、動物のことをよりよく知ろうという気持ちをもてるようにしていく。

それがいのちの大切さを感じることにもつながっていくものと思われる。



ジャッキー(ポニー)

本報告では、「もっと楽しくふれあいらんど」の実践を例にして述べていく。

実施内容

- ① 活動のねらいや計画を立てる。
 - ・ ふれあいらんどの動物たちとこれからどんなふれあいをしていくのかを知り、活動への意欲を持つ。
- ② 本校にいる6種類（ポニー、ヤギ、ヒツジ、ウサギ、ハムスター、魚）の動物について調べる。
 - ・ 本やインターネットを使って6種類の動物の生態や飼育方法、仲間などを調べる。
- ③ ふれあいらんどの動物についてもっとよく知り、ポスターにまとめる。
 - ・ 調べる動物が同じ者同士がグループになってさらに詳しく調べる。
- ④ 互いに調べたことを発表会で見合う。
 - ・ 互いの調べを見合い認め合う。
 - ・ 自分が調べた動物以外のことも知る。
- ⑤ 動物の世話を通して動物と直接関わる。
 - ・ 世話の仕方を教わりながら、自分たちの手でふれあいらんどの各動物たちの世話をする。
 - ・ ふれあいらんどをもっとよい環境にするためにはどうしたらよいか、飼育主任の教師から話を聞く。
 - ・ 動物にとってもっとよい環境になるようにクリーン計画を立てる。
 - ・ 3回にわたり、クリーン作戦を行う。
 - ・ 飼育小屋の掃除方法説明書をグループごとにまとめ、クラスの中で発表する。



事後指導

- ・ 道徳や学級活動の時間などを通して、動物愛護と生命の大切さについて話し合う。
- ・ 常時の当番活動（ヤギ）でも、工夫した取組ができるように支援する。

取組の評価

子どもたちは餌の与え方や小屋の清掃活動を通して、「自分たちがいなければ動物たちが困ってしまう」といった責任感を高めていくことができた。また、動物たちを夢中で世話をしたことにより、動物の気持ちになって考えることの大切さを感じたものと思われる。

また、人も動物もみな同じ大切な生命であること、相手をよく知り、相手の立場になって考えることなどがよく理解できたものと思われる。

本校の特徴である「ふれあいらんど」を活用した指導は、6年間の中のどこかで位置付ける意義がある。それは、動物の世話をすることで、相手の立場になって考え、命の大切さを感じることでできる子どもを育てるためのよい機会になるからである。

〈*1〉ボルピィ牧場は那須田淳作「ボルピィ物語」（ひくまの出版）である。